

## 議 事 録

委員会名	平成30年度第5回 足立区男女共同参画推進委員会
日 時	平成30年11月12日(月) 午後2時～4時
会 場	L. ソフィア 3階 第3・4学習室
出欠状況	委員現在数13名 出席者数10名
出席者	<p><b>【委員】</b> 石阪督規委員長・中川美知子副委員長・本間博子委員・乾雅栄委員・長谷川幸恵委員・遠藤美代子委員・高祖常子委員・猪野純子委員・西村真海委員・清水典子委員</p> <p><b>【事務局】</b> 寺島光大区民参画推進課長、佐藤仁彦男女共同参画推進係長、吉川聖貴男女共同参画推進係員、宇根紅桃男女共同参画推進係員、石川芳江共同参画指導員</p> <p><b>【傍聴者】</b> なし</p>
会議次第	別紙のとおり
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度第5回足立区男女共同参画推進委員会次第</li> <li>2 平成30年度年次報告書</li> <li>3 平成30年第4回男女共同参画推進委員会議事録</li> <li>4 中小企業のための労働セミナーのチラシ</li> <li>5 男女参画プラザ区民企画講座チラシ</li> </ol>
発信者(敬称略)	議 事 内 容
石阪委員長 寺島課長	<p><b>1. 定足数の確認、第4回委員会の振り返り</b></p> <p>本日の出席委員は7名で、定足数は満たしていることを確認する。          前回は、資料2の年次報告書の記載にあるように、皆様方からご意見をお伺いしていたところである。詳しくは議事録を確認いただきたい。</p>
石阪委員長	<p><b>2. 年次報告書作成に向けた提言(資料)</b></p> <p>年次報告書に前回皆さんからいただいたご意見が16ページ17ページにまとめられている。今回議論する内容は主に2つで、1つは災害対策、防災についてである。          皆さんからいただいた意見を見ると男女共同参画視点での防災対策をもっとしっかりと行い、もっと多様な団体と連携してはどうかという意見であった。町会・自治会が機能しなくなった時にリスクも考えられるので、コンビニをはじめとする民間や学校と連携していくような仕組み作りが必要となってくる。また、避難所を作るにあたって防災士の育成についても、もう少し男女共同参画の視点が入ってもいいのではないかということだ。特に防災の担い手としての女性リーダーは非常に少ない。さらに、トイレやファミリーテントなどを区としてもっと備蓄してはどうかという意見や、リーダーを養成するための講座をもっと作ってはどうかという意見もあった。</p> <p>2つ目のテーマは子どもの貧困。区としては網羅的に様々なことを進めているが、大きく2つある。1つは子どもに対する支援で区としては学力の向上やキャリア教育など、子どもの自己肯定感を育てるための教育をしている。しかしながら、親の貧困が子どもに連鎖するため、貧困の連鎖を断ち切ることが区として大きなミッションとなるので、親向けの支援が必要となる。単にお金を渡すのではなく、親が自立できるような就業支援や様々なキャリア支援を同時に行っていかなければ、貧困の連鎖を断ち切ることは難しい。特に女性のひとり親の場合は、なかなか定職に就くのは難しい。その辺をどうやって支援していくかということを前回議論した。今日はそれを踏まえて提言を皆様</p>

	と一緒に考えていきたい。報告書7ページには、防災分野での提言について、前回の議論を事務局でまとめさせていただいた。
高祖委員	1番のところで2行目の企業、大学、保育所に、またNPOなどの団体が協働と足していただきたい。
石阪委員長	多様な連携となると他はどうか。企業、大学、NPOほか、何かあった時に子どもをみてもらえるよう助産師団体や保育士と連携が必要になる。その他関連団体、専門職団体がいいか。
猪野委員	高齢者、障がい者の管理している団体、地域包括支援センターと連携しないと別にされてしまうと思う。
石阪委員長	全てのものが災害時には連携できるような仕組みや体勢を構築してほしい。講座については、小さな子どもがいる保護者向けの防災講座あるいは女性ボランティア、女性の災害ボランティアの育成を提言として入れておく。
本間委員	足立区独自の防災専門家の資格、防災ボランティア専門員のような認定制度はどうか。
石阪委員長	他の団体に申し込むと高額のコストがかかるので、区として独自資格があれば、低価で受けられる。備蓄用品については、具体的に書く必要があるか。括弧書きで、ファミリーテントあるいは簡易トイレ等と入れてもいいかもしれない。大地震が発生した時、ライフラインが動かないという状態で、特に男女共同参画の視点で考えられる備蓄について入れる。トイレとプライベート空間がみなさんの意見として多かった。これはある程度それぞれの地域に、区が用意してもいいと思う。
本間委員	女性用品の備蓄であればサイズをいろいろ揃えてもらいたい。
石阪委員長	援助物資が入ってきた時にSが欲しいのにMしか来ないなど、避難所運営でオムツや下着の支援が入ってきた時の整理は、女性が意志決定の場にはないと混乱がおこる。
高祖委員	関連するというアレルギー対応を意識しておかないと後回しになり、食べられない人が出る。
石阪委員長	具体的なことはある程度後ろの自由意見欄に入れる。
石阪委員長	防災倉庫の中に色々な物が入っているが誰も使ったことがないので動かし方がわからない場合もある。訓練は毎年やっているが防災倉庫を開ける訓練はあまりやらないようだ。防災訓練というルーティンなパターンが多い
西村委員	去年大きかったから今年は小さくやろうとかで変えている所もあると思う。
清水委員	毎年同じだと参加しなくなってしまうので、消防署と相談して今年はこのプログラムをするなど、参加側が工夫すれば変えてもらえる。
高祖委員	足立区独自の女性ボランティアなどが入って、「毎年同じだと参加率が低いので今年はこのことやってみませんか」というような提案ができる形になると良い。
遠藤委員	大きな地震があれば避難所で病人も発生する。区役所の後ろに足立区医師会の建物があるので、医師会を巻き込み、今後医師会と連携ができるとよいと思う。
本間委員	地震が起きた時は民間の方も手伝って、この方は緊急度が高い、低いと区別をして病院に搬送するなどしないと人数が足りなくなる。
中川副委員長	足立区独自の防災士資格を作れば、そこで連携してやっていくことができる。町会から1人防災士候補の人をと呼びかけると、高齢の方がいらして意欲だけで終わりにになってしまうので、気持ちをもって動ける人が区内全域で連携し、本当に動ける組織を作っていくことが望ましい。
猪野委員	定期的に講習会等を区で開催して、自分たちのスキルアップをしていくようにすればいいと思う。
石阪委員長	防災ボランティア、女性の防災ボランティアを育成するというのと、もう1つは訓練メニューをもっと多様化する。特にこういった女性の視点を盛り込みながらルーティンな訓練でなく、色々なバリエーションのある、様々な想定を踏まえながら訓練をしていく。そのためには誰がということになるので、防災ボランティアがその地域の中心となって動けるような仕組みを作ってほしい。

石阪委員長 高祖委員	<p>文言の修正や具体的な内容については、後ろの方に記述させていただくということにする。</p> <p>貧困分野の3番目のところで、授業の中で性教育や生きる教育、家族のあり方など家族関係を学ぶことによって、現在はあまりいい関係ではない家族であっても、その先の自分たちが作る未来の家族像に期待を膨らませるところを学ぶことも大事である。</p>
石阪委員長	<p>3番目の、自己肯定感や生きる工夫、生きるための教育を考えると性教育もその1つだし、家族の大切さを学んだり、子どもを抱っこする体験をしたり、具体的な取組みとしては色々考えられる。自己肯定感を得るための様々な取組みや教育を積極的に進めていってほしい。2番目のキャリア教育に関してはどうか。</p>
寺島課長	<p>キャリア教育に関しては、中学校で職場体験をやっているので各学校それぞれ独自に計画をもって打ち出している。小学校でも仕事に就く前段階、大学を体験するという授業もやっている。足立区の子どもは進路選択に大学はないと言われているので、大学生と触れ合ったりし、そのような世界もあることを子どもたちに見せて進路選択を広げてあげるのもよい。</p>
石阪委員長	<p>視野が狭く、選択肢が少ないので、視野や進路選択の幅を広げるためのキャリア教育が必要である。多くの子どもは、親から「辛い仕事だから、3Kと言われていたところはやめた方がいい」と言われていると思う。実際に働いている人の話を聞いたり、現場を見たりしているのかというのは別問題。視野を広げるために大学体験はよいと思う。最近の大学では、親にひと通り大学を見せる親向けのツアーをやっている。親も大学を知らないなので、中を見たいという要望が強く、色々な大学で親のツアーも企画してほしいと言われている。子どもに見せるのもいいが地域の方々に大学を見てもらってもおもしろいかもしれない。</p>
中川副委員長	<p>第十中学校では親御さんが卒業した大学に、PTAが引率し、希望する生徒たちが見学に行ったりしている。大学側の厚意で、模擬授業を1コマでもしていただいたりすると、子どもたちは興味深々で、こんなに専門的な事をするのだというのが分かったりするようだ。</p>
石阪委員長	<p>区内にいくつか大学があるので、そのあたりの連携は区としてコーディネートできそうだ。行政がうまくコーディネートして、進路選択の1つとして大学もあるということ子どもや親に知ってもらうことも必要かもしれない。大学は特に金銭的な問題もある。奨学金をわかりやすく教えるなど、お金の使い方や貯め方も含めて中学生向きの教育は必要になる。大学が色々な団体と連携して、大学生向けに働き方改革の話や、切実な現実問題を話す学生に響くので、中学生にも響くと思う。あとは、保護者の方が来て、子どもたちに就業やキャリアの教育をやるということはないか。</p>
西村委員	<p>保護者代表で、1回子どもに職業体験の話をしたことがある。</p>
石阪委員長	<p>場合によっては区が間に入って、色々な職種について話をしてくれる人を派遣するような仕組みがあってもいいかもしれない。パソコンの入門スキル等の講座はどうか。</p>
寺島課長	<p>親子支援課でひとり親向けに5日間集中型のパソコン講座を今年度2度ほどやっている。ひとり親に限らずに社会で働きたい方にスキルを身につけてもらうというのは必要だと思う。</p>
石阪委員長	<p>長谷川委員、何か自治体や行政の方でやるべき支援講座はあるか。</p>
長谷川委員	<p>具体的に要望があるのは、基礎を5日間受講し、その上でパワーポイントをやりたい人は次のコースでやるような段階的に学べる内容で、そのように受講者の選択肢が増えるとい。現状で行っている内容だと、予算や回数も限られているので、2回か3回である程度の内容を詰め込んでしまう。</p>
石阪委員長	<p>広い意味での連携体制を作ることが重要であって、行政だけで全てをやる時代ではない。民間も含めて色々なところと連携していく仕組みを作っていないと貧困の根絶というのは難しい。女性の自立、不登校対策も連携が必要だと思う。</p>
本間委員	<p>不登校の方や病気があって学校に行けない人用に、ロボットでパソコンと繋げて、ロボットが代わりに学校に行ってベッドの上から授業を見られたり、ロボットを動かす事ができたりして、ベッドにい</p>

<p>石阪委員長</p>	<p>ながら授業に参加できるというのが今あるらしい。</p> <p>不登校改善のために様々なツールを利用していくのもよい。大学も全部タブレットで授業を受けられる様になっているし、地方にいても東京の大学の授業が受けられる時代になってきている。8割方がタブレットで大学も卒業できるようになってきているとなると、通うことの意味自体が問われている。また、遠隔で授業の遅れを取り戻すような工夫ができれば面白い。</p> <p>防災では、標準レベルをあげて、もっと努力をしていただきたいということだ。どれぐらいの危機感を皆が共有しているかということもある。色々な地方を回ると、災害に対してものすごく敏感で備蓄に対してすごく理解がある地域と、備蓄に予算を使うと無駄なものを備蓄するというクレームがある地域があるので、足立区でも災害に対するリスクを共有できるかという気持ちの問題もある。まず個人の方には、昼間は会社にいるので、行政ではなく民間の方にも協力していただきたい。</p> <p>提言の記載については、数を増やすというよりは提言の文章を変えていただくことに加えて、16、17ページ辺りに今の皆さんのご発言を簡条書きで入れていただき、最終的には表紙に総括意見という形にまとめて報告書を作成する。例年、総括意見については、いただいた意見をまとめて最終的には委員長、副委員長がチェックする段取りである。今年度の委員会のまとめとして、作成した年次報告書を区長にお渡しする。</p> <p><b>3. 区長報告について</b></p>
<p>寺島課長</p>	<p>年次報告書については、まずは事務局の方から区長に冊子としてご報告をいれたいと思っている。そちらを区長に見ていただいた上で、推進委員と意見交換等々が必要かどうかについて、日程調整も含めてやらせていただきたいと思っている。</p>
<p>石阪委員長</p>	<p>今年度については年度末の日程調整等々で、区長とこちらとの日程がうまく合えばそういう場を設けさせていただくが、難しいとなると私の方からお話するような形にもなる。</p>
<p>寺島課長</p>	<p>年次報告書は作成段階でもメール等でご意見伺いながら、最終的には委員長、副委員長と校正させていただく。</p> <p><b>4. 事務連絡</b></p> <p>(省略)</p>